

# 農村地域の環境保全に向けて (環境保全調査の概要)

農村振興局鳥獣対策・農村環境課  
農村環境対策室

令和4年3月

**農林水産省**

# 農村地域の環境

- 農村は、食料を生産するために農業が営まれてきた場であるとともに農業者を含めた住民の生活の場として、長年、農村コミュニティにより形成・保全されてきた二次的自然環境から成ります。
- 食料が安定的に生産されるだけでなく、地域や生物多様性の保全、美しく安らぎ空間となる景観の形成、文化の伝承、情操教育といった多岐にわたる恩恵がもたらされています。
- 一方で、地球温暖化に伴う気候変動が、食料生産の場や農村で生活する人々の生活基盤を脅かす重大な問題となるなど、環境が農村に与える影響にも対応が必要です。

## 【農村環境を構成する主要な要素】

基本的な要素である「農地」、「農業用水」と、これらを基盤として形成されている「生態系」、「景観」、および人的要素である「農村コミュニティ」に分類できます。さらに、今後、地球温暖化が農村環境に多大な影響を及ぼすことを踏まえ、「地球環境」もこれらを取り巻く重要な要素となります。

## ■ 多様な生物のすみかとしての農村



水田等の農地、用排水路、ため池といった多様な環境が、農業の営みを通じて有機的に結合し、多くの生物を育む環境や良好な農村景観を保全・形成しています。

## ■ 気候変動の影響



気温の上昇・降水量の減少による影響

降水量の増加による影響



# 農村地域の環境保全の推進のための調査

## 土地改良長期計画（令和3年3月）

### ○SDGsの達成に資する取組推進

土地改良事業は、劣化した土地と土壌を回復し土地劣化を防ぐ等の観点から「15.陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」に貢献するものである。

### ○政策課題3：農業・農村の強靱化

頻発化・激甚化する災害に対応した排水施設整備・ため池対策や流域治水の取組等による農業・農村の強靱化

## 環境保全調査

農業農村整備における生物多様性の保全技術の確立など、環境との調和に配慮した事業の推進に貢献する調査を実施します。

農村地域における環境の保全・形成等に必要な技術を確認するための調査を実施し、水田や水路等における生物多様性等の環境保全のための適切な対応技術や、農業生産基盤に影響を及ぼす気候変動等への対策技術等を確立します。

### 生物多様性の保全



魚類の生息環境創造  
(魚巣ブロック)



水田・水路間のネットワーク  
(水田魚道)

### 環境影響への対応



特定外来生物カワヒバリガイ  
による施設被害への対応



気候変動による将来の豪雨等への適応

# 調査の成果を活用した農業農村整備事業の推進

- 農村地域の環境の保全や環境影響への対応のための調査結果は、農業水利施設における生物生息環境保全、外来種被害対策などの技術資料や手引き等に取りまとめ、環境との調和に配慮した調査、計画、設計、施工等を進めるための基準や技術指針等に反映します。

- 調査結果の活用により、農業農村整備事業の実施にあたって、効率的な農業を実現しつつ、環境への負荷や影響の回避・低減により生物多様性や農村景観に配慮し、持続可能な社会の実現に寄与します。

## ■環境との調和に配慮した生産基盤の整備

水田魚道では多くの生きものの遡上を確認



水田と水路をつなぐ魚道により豊かな生物相を創出

生きものの逃げ場の確保

水田に水がない時期に、生きものが退避できるよう水路を設置

気候変動による影響への対応策について、各地の取組事例を整理し、参考事例として情報発信

ため池における対応策

カワヒバリガイ幼生の着底を未然に防ぐ

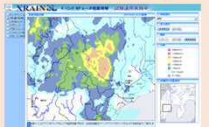
早期発見



豪雨・渇水への備え／参考事例集（ため池編）

■平常時の備え

きめ細かな降雨情報の入手・活用  
管理記録・マニュアルの整備  
体制づくり、資材整備、巡視・点検



■豪雨・洪水時の備えと管理方法

事前放流、導水停止、清掃、避難・注意喚起  
他団体・組織との連携

■少雨・渇水時の備えと管理方法

多様な水源の確保  
節水・番水・水量調整  
反復利用、見回り、注意喚起



カワヒバリガイ被害対策の取組

カワヒバリガイの水利施設への侵入による影響について、早期発見、幼生定着防止策の実施等により対応